

逞しく生きる力を

園長 今野善郎

安倍首相の突然の休校要請には驚き戸惑いましたが、子どもたちの安全を何よりも優先する発想は評価し、その判断を尊重したいと思いました。

そのニュースを聞きながら、まもなく9年前となる福島での大地震と放射線による被害で、卒園礼拝（式）をどうするかを同じように悩んだことがフラッシュバックしてきました。大災害は、わたしたちの予想をはるかに超えて深刻化します。今回の新型コロナウイルス感染も長期化し、日常生活に大きな影響を及ぼし、ストレスを惹起することでしょう。

あの3月11日、漠然とした不安ばかりが先行し、先の見通しがきかない霧中を進んでいるようでした。園長をしていた栄光幼稚園の卒園児は99名でした。その内、20名以上が沖縄から北海道まで放射線被害を恐れて県外避難をしていました。この惨状で3月中に卒園礼拝を開催するのが無理と考えていました。ところが保護者からは「このような暗い危機の時こそ、卒園礼拝を行い、楽しかった幼稚園の思い出を改めて思い出し、それらを力に、それぞれの小学校に進んで欲しい」との開催要望が多く出されました。延期して3月末に実施された卒園礼拝には、全国に離散していた全員が集まり、一人も欠けることのない卒園礼拝に、園児以上に大人が勇気と感動をいただきました。困難な時こそ、皆が励まし繋がり合おうとする力を強く感じました。今回の新型コロナウイルス感染症でも、同じ温かい絆を持てたらと願っています。

「逞しく生きる力」とは何かを考えます。福音幼稚園が「遊びを大切にする保育」を目指す意図は、自由な遊びの中で今回のように想定対応できない事態に突然に遭遇し、そこで多くの葛藤を経験しながら、自分で解決しなければならないからです。この「逞しく生きる力」は、教諭が教えられる力ではなく、自らが日常の保育や生活の中で、小さな困難や挫折を経験し、怒りや悲しみの感情を抑える力、それでも愛し仲直りする力、自分を愛し受け止めてくれる存在がいることの体験の積み重ねで育てられる力なのです。その力が生涯に通じる不動の財産となります。

福音幼稚園を卒園する園児が、見えない神様に守られながら、この「逞しく生きる力」の核を確かに培っていることを信じ、各小学校に祈りと喜びをもって卒園礼拝を迎えられることを心から願っています。（2020年2月28日）